



国民体育大会 サッカー競技 施設ガイドライン

第5版



財団法人 日本サッカー協会
国体実施委員会

「国民体育大会・サッカー競技 施設ガイドライン」の目的と方針

国民体育大会における競技施設は、財団法人日本体育協会による「国民体育大会施設基準」によって整備される。

国民体育大会におけるサッカー競技実施のための施設整備計画立案にあたっては、開催会場の様々な状況を勘案した上で検討する必要がある。例えば、競技場を新築する場合、既存施設を一部改修する場合、既存施設をそのまま使用する場合、不足する施設・設備を新たに設ける場合、不足する施設が仮設対応となる場合などである。これらを勘案し、国体におけるサッカー競技実施のための最低限の施設を要求するものとして「国民体育大会・サッカー競技 施設ガイドライン」を作成する。

本ガイドラインは、あくまで「国民体育大会 サッカー競技」のために示すものであり、一般的にサッカー競技に使用する施設を整備する場合は、「財団法人日本サッカー協会 スタジアム標準サッカースタジアムの建設・改修にあたってのガイドライン(2010年3月・改定)」に準拠すること。

人工芝の整備に関しては、「JFA ロングパイル人工芝ピッチ 公認に関するガイドブック」に準拠すること。

国民体育大会サッカー競技 施設ガイドライン

1. フィールド(競技のフィールド、芝生面の余白、陸上トラックを含む)

- 日本体育協会サッカー競技開催の施設基準(開催基準細則)より抜粋。

| 基 準 | 摘 要 |
|--------------|---------------------------------------------------------|
| 規定の競技場芝生7面以上 | 2会場地以上に分かれてもよい。 原則天然芝とするが、全3面までJFA公認人工芝ピッチの使用を可能とする。 |

- 天然芝のコンディションの維持、並びに円滑な競技運営を行なうために8面～9面の確保が望ましい。
- 種別毎の会場分配方針は、次の通りとする。成年男子：2～3面、女子：2～3面、少年男子：3面
- 大会日程案並びに種別の試合割り振り案は下記の通り、原則1会場＝3試合以下(1日)にて対応すること。ただし、各種別の競技開始日については別途、関係組織間にて調整する。

| 成年男子 | 第1日 | 第2日 | 第3日 | 第4日 | 第5日 | 第6日 |
|--------|------------|-----|------|-----|-------|-----|
| イベント | 総合開会式・監督会議 | 1回戦 | 準々決勝 | 準決勝 | 決勝・3決 | |
| 施設① | | 2試合 | | 2試合 | 2試合 | |
| 施設② | | 3試合 | 2試合 | | | |
| 施設③ | | 3試合 | 2試合 | | | |
| チーム数16 | | 8試合 | 4試合 | 2試合 | 2試合 | |

| 女子 | 第1日 | 第2日 | 第3日 | 第4日 | 第5日 | 第6日 |
|---------|-------|------|-----|------|-----|-------|
| イベント | 総合開会式 | 監督会議 | 1回戦 | 準々決勝 | 準決勝 | 決勝・3決 |
| 施設④ | | | 2試合 | | 2試合 | 2試合 |
| 施設⑤ | | | 3試合 | 2試合 | | |
| 施設⑥ | | | 3試合 | 2試合 | | |
| チーム数:16 | | | 8試合 | 4試合 | 2試合 | 2試合 |

| 少年男子 | 第1日 | 第2日 | 第3日 | 第4日 | 第5日 | 第6日 |
|--------|------------|-----|-----|------|-----|-------|
| イベント | 総合開会式・監督会議 | 1回戦 | 2回戦 | 準々決勝 | 準決勝 | 決勝・3決 |
| 施設⑦ | | 3試合 | 2試合 | | 2試合 | 2試合 |
| 施設⑧ | | 3試合 | 3試合 | 2試合 | | |
| 施設⑨ | | 2試合 | 3試合 | 2試合 | | |
| 試合数:24 | | 8試合 | 8試合 | 4試合 | 2試合 | 2試合 |

- 競技のフィールドの大きさは、「105m(タッチライン)×68m(ゴールライン)」とすること。
- 芝生面の余白(スペース)はタッチライン、ゴールラインそれぞれから5m以上確保すること。
- 陸上競技場の場合、競技のフィールド周囲の余白(スペース)は、タッチラインから1.5m、ゴールラインから1.0m以上確保すること。
- 競技のフィールド及び芝生面の余白の状態は、
 1. 平坦であること
 2. 天然芝は常緑であること
 3. 人工芝はJFAロングパイル人工芝公認ピッチであること
 4. 水はけが良いこと
- ロングパイル人工芝ピッチに関する留意点は、下記の通り
 1. JFA ロングパイル人工芝公認ピッチに限り使用を可能とする。
 2. 1回戦、2回戦(成年男子・女子については準々決勝)、3位決定戦に限り使用可能とする。
 3. 各種別1面の使用を原則とする。同種別で2面以上使用する場合は、1会場地内に2面以上の人工芝ピッチがある場合に限り、開催地の要請を受けて、適宜JFA 国体実施委員会にて協議の上、その可否を決定する。

2. 付帯施設(フィールド関連)

- ゴールポストおよびクロスバー(内側面で幅 7.32m、高さ 2.44m)は、選手の安全を考慮して白色丸型(直径 12cm)のものとする。可能な限り埋め込み式などの独立型のものとする。
移動式のゴールを使用する場合は、確実に固定されていなければならない、また危険防止のため、ボルト等露出している部分はスポンジ・布等で巻いて覆うこと。
- ゴールネットは、原則白色とする。ネットについてもゴール後方の支柱によって張られることが望ましい。ネットはフィールドにピンなどを用い固定するが、ピンをフィールドに突出させないこと。
- 競技のフィールドのラインは全て幅 12cm とし、ペイントを使用してマーキングすること。他競技のラインがある場合は消すこと。
- チームベンチは、本部側のハーフウェーラインをはきんで、左右にそれぞれ 10m 程度離し、かつタッチラインから 5m 以上の場所に必要な席数を設置すること。
- 第 4 の審判員席は、本部側のハーフウェーラインの延長線上でタッチラインより 5m 以上離れた場所に設置すること。
- チームベンチ・第 4 の審判員席は、背後に本部・観客席がある場合、透明のビニールテントを使用すること。
- テクニカルエリアを設置すること。表示についてはマーカーコーンの使用を可とする。
- 得点掲示板・時計は観客及び役員席から見やすい場所に適切な大きさのものを 1 ヶ所以上設置すること。得点掲示板には、チーム名、前半、後半、延長前半、延長後半、合計の欄を備えること。時計は 45 分までの経過が表示出来るものとし、自動でも手動でも可とする。(参考: 国体のサッカー競技は 35 分ハーフ)
- 旗揚場ポールは、5 本設置することとするが、メイン会場以外は 3 本でも可とする。防球ネットに旗を取り付けることも可とする。
- 試合中に対戦するチームそれぞれが専用で、ピッチ近隣でウォームアップできるスペースを用意すること。屋内、屋外を問わない。陸上競技場であれば、簡易な人工芝カーペットでも可能とする。

3. 付帯施設(諸室関連)

- 競技運営本部や審判員用に既存の施設がない場合は、特例的に仮設対応を認める。仮設対応の場合は原則 2 階建てのプレハブ等にて、風雨、気温等に運営要員の作業や使用機器類が影響されないようにすること。
- 仮設にて対応する競技運営本部の留意点は下記の通りとする。
 1. マッチコミッショナー席・審判アセッサー席をフィールド全体が見渡せる中心位置に設置する。
 2. 記録員席をフィールド全体が見渡せる中心位置付近に設置する。
 3. 関係各団体の役員観戦席を確保する。
 4. テクニカルスタディグループの作業スペースを確保する。
 5. 窓の高さと調整し、必要に応じて机・椅子の下に台座等を設置する。
 6. 競技のフィールドに面した窓ガラスは、ボールがあたっても割れない措置をとる。
- チーム用更衣室は 1 日 1 会場で出場するチーム数分の部屋を確保すること。同一会場で男子、女子の試合が行われる場合は、更衣室及びシャワー室は男女別々に設け、プライバシーが守れるように配慮すること。なお、テント対応の場合は風雨、気温等に配慮し、囲いをつけるものとする。チーム用更衣室がフィールドより離れている場合は、フィールドそばに囲いのある更衣スペースを設けること。
- 審判用更衣室は女子審判員の割当もあるので、更衣室及びシャワー室は男女別々に設けること。また、シャワーは 2 基以上設けることが望ましい。審判用更衣室近隣に審判員用のミーティングスペースを確保すること。
- ドーピングテストの施設要件については開催自治体並びに日本体育協会と調整すること。

4. 付帯施設(その他)

- 観客対応として、常設スタンドのない施設については仮設スタンドを設置すること。また、観客席にテント等で風雨に影響しない視察員席を設け、必要に応じてテクニカルスタディグループの映像撮影等に活用すること。
- 報道関係者(ペン記者およびスチールカメラマン)用のスペースを、適宜設置すること。
- 選手、審判員、競技役員と観客の導線およびエリアが分かれるよう考慮すること。
- 必要に応じて駐車場を設けること。
- 対戦するチームそれぞれが、専用あるいは同時に、試合前のウォームアップに使用できるスペースとして、試合会場近隣に、屋内、屋外を問わず、目安として100㎡以上の平坦な場所を用意すること。できれば、天然芝、屋内ならば人工芝が張ってあることが望ましい。ボールの使用を考慮し、車道、歩道の往来の妨げとならないような位置を選定すること。危険防止のため外部から侵入できないよう、簡易な囲い等でエリアを確立すること。

5. 大会運営本部施設

それぞれの本部は同一の場所に設営されることが望ましい。開催地へのアクセスや施設の規模等で分散となる場合は、事前に JFA/開催地サッカー協会/開催自治体と協議し決定すること。

大会運営本部(JFA)

- JFA から派遣される役員、スタッフが滞在し、大会期間に運營業務が円滑に実施できる施設であること。
- 競技会場へのアクセスが良いこと。
- 関連団体との通信・連絡が円滑に実施出来る施設であること。

審判本部

- JFA から派遣される役員、スタッフが滞在し、大会期間に運營業務が円滑に実施できる施設であること。
- 競技会場へのアクセスが良いこと。
- 関連団体との通信・連絡が円滑に実施出来る施設であること。

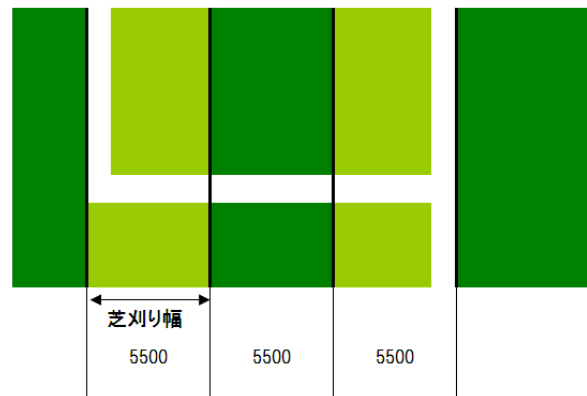
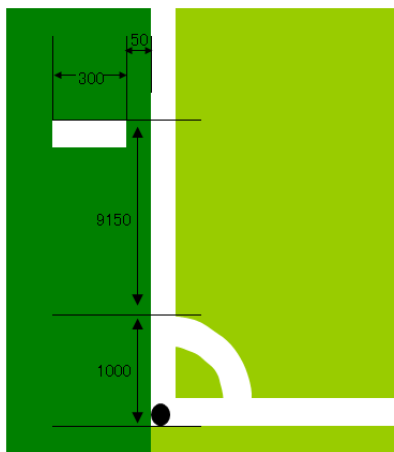
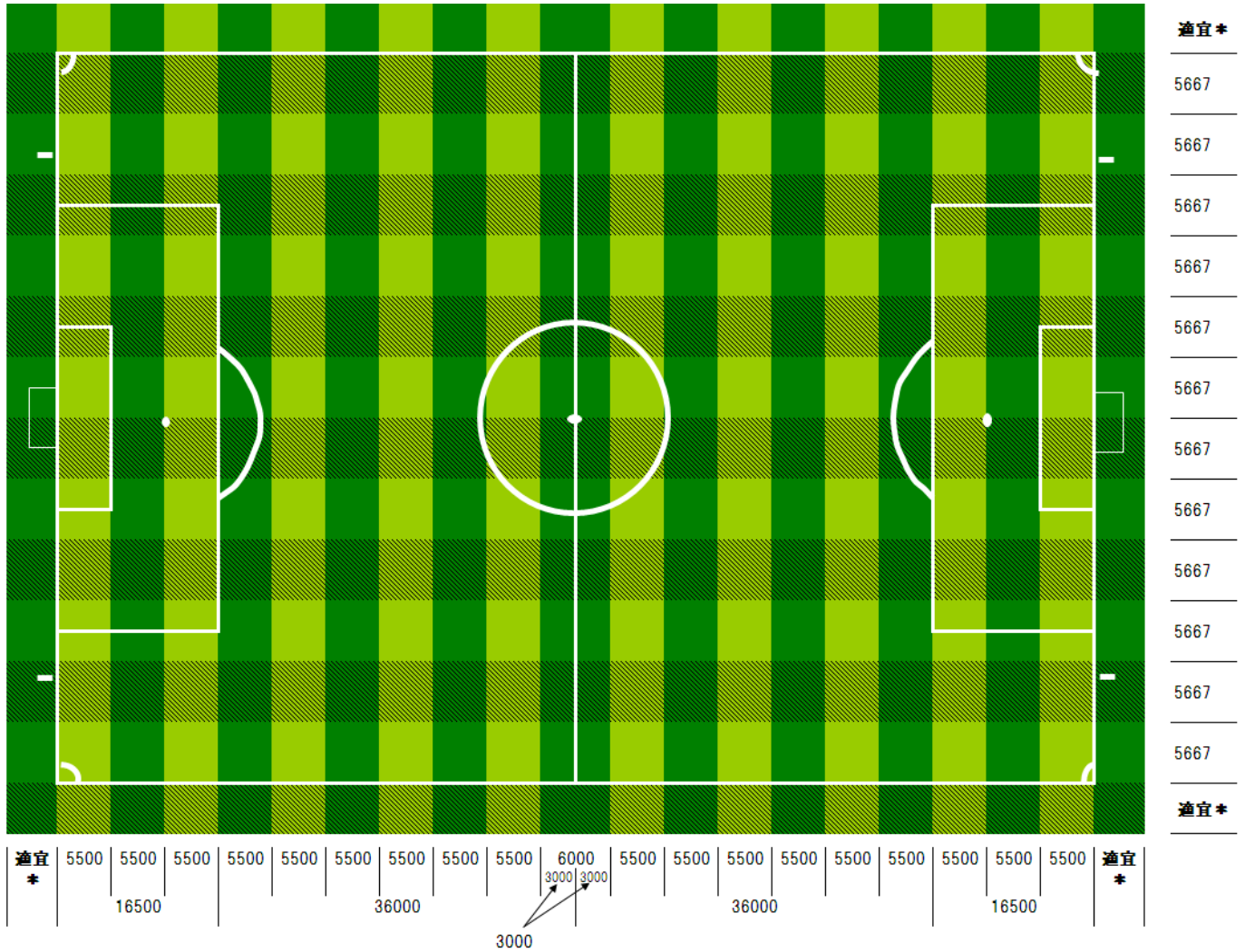
大会運営本部(開催地サッカー協会)

- 開催地サッカー協会の役員、スタッフが滞在し、大会期間に運營業務が円滑に実施できる施設であること。
- 競技会場へのアクセスが良いこと。
- 関連団体との通信・連絡が円滑に実施出来る施設であること。

(備考)

- 付帯施設の仮設対応が多い場合のレイアウト案は、別紙資料を参照。(資料=1)
- 天然芝ピッチの整備に関しては別紙資料を参照(資料=2)

天然芝レイアウト例



- ペナルティエリアを三等分した数値(5.5m)を単位として、順目、逆目の順で交互にカティングを行なう。
- ハーフウェーラインを跨ぐ部分で、(3.0m)の数値が残るので、ラインを跨ぎ(6.0m)とする。
- 余白の部分は適宜と表示しているが、陸上競技場の場合(タッチラインから 1.5m、ゴールラインから 1.0m)を除き、5m 以上確保するものとする。
- 横刈りを基本とし、縦刈り(網掛け表示)の跡が強調されないよう配慮する。
- 芝生の刈高は 20mm~30mm を目途とする。芝のコンディション、天候等を考慮し、適宜決定する。